

GUNDAM.INFO Search

www.gundam.info

パソコンからのご注文は www.bandai-hobby.net/

モバイルサイトからのご注文は www.bandai-hobby.net/

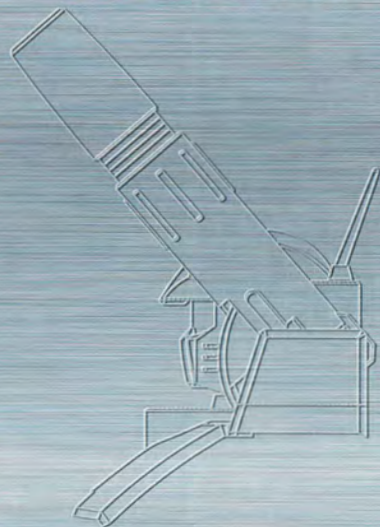
Any links accessed by your access method and connection to the website are your own responsibility.



MOBILE SUIT
RX-77-2

GUNCANNON

E.F.S.F. PROTOTYPE MIDDLE-RANGE
SUPPORT MOBILE SUIT



地球連邦軍
中距離支援型モビルスーツ
RX-77-2「ガンキャノン」
1/100スケール マスターグレードモデル



BANDAI SPIRITS 2001 MADE IN JAPAN

5063570



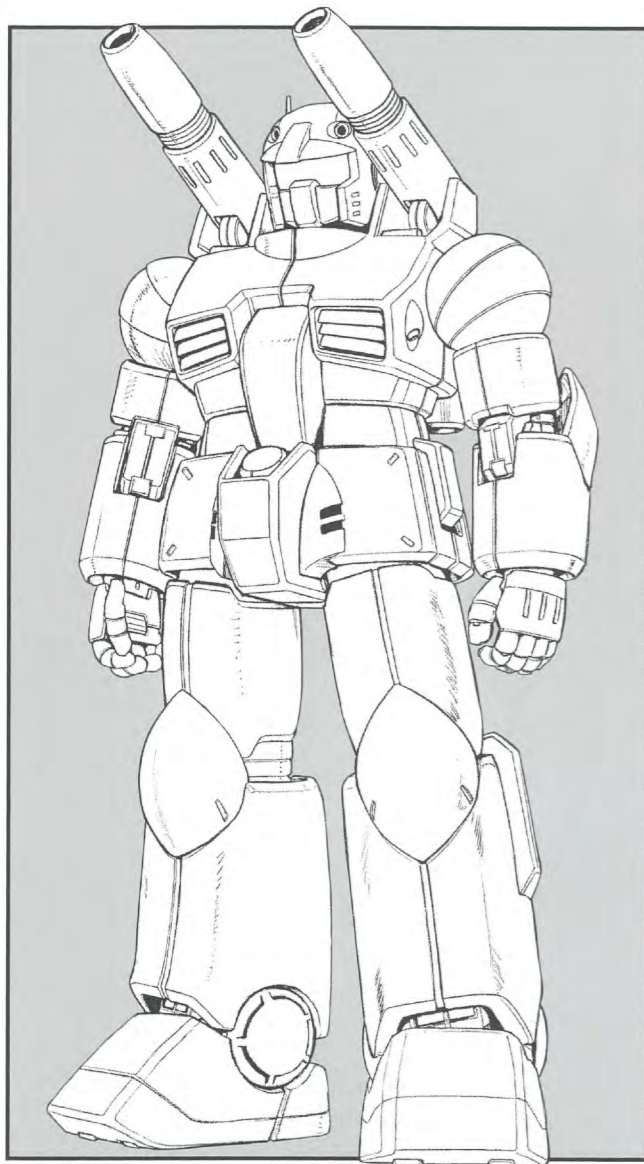
協力：ホビージャパン



地球連邦軍
中距離支援型モビルスーツ
RX-77-2「ガンキャノン」
1/100スケール マスターグレードモデル

RX-77-2 GUNCANNON

E.F.S.F. PROTOTYPE MIDDLE-RANGE SUPPORT MOBILE SUIT



RX-77-2 GUNCANNON

RX-77「ガンキャノン」は、連邦軍が「V作戦」に基づいて「ガンダム」「ガンタンク」などと共に開発した中距離支援型MS（モビルスーツ）である。実質的な開発そのものは前年の「RX計画」から始まっており、すでにその時点から「近接戦闘や白兵にも対応する万能型の機体」と、それを「中距離から支援する機体」「長距離から援護する機体」という機能分化が図られていた。特に、MS用のビーム兵器も開発途上にあっただけで、支援機であるRX-75および77は、主武装として信頼性の高い実体弾が採用されている。また、これら3機種は、パイロットの生還と稼働データの回収を確実なものとするため、主動力炉とコックピットモジュールが小型戦闘機に変形して脱出するという「コア・ファイター/コア・ブロック・システム」が搭載されており、ホワイトベースを母艦とする戦術研究システムが構想されていたのである。

ガンキャノンは、主に後方からの支援砲撃や中距離からの狙撃などの任務が想定されていた。そのため、機動性よりも耐弾性を優先した設計が施されており、当時のMSとしては破格の装甲強度を持っている。無論、その走破性や機動性は重力下においても充分実用に堪えるものであり、地対地あるいは地対空戦闘においても十分に威力を発揮している。特に、不整地などにおける低姿勢からの砲撃は、対抗面積が小さいため被弾率も低く、強固な装甲とも相まって多大な戦果をもたらした。

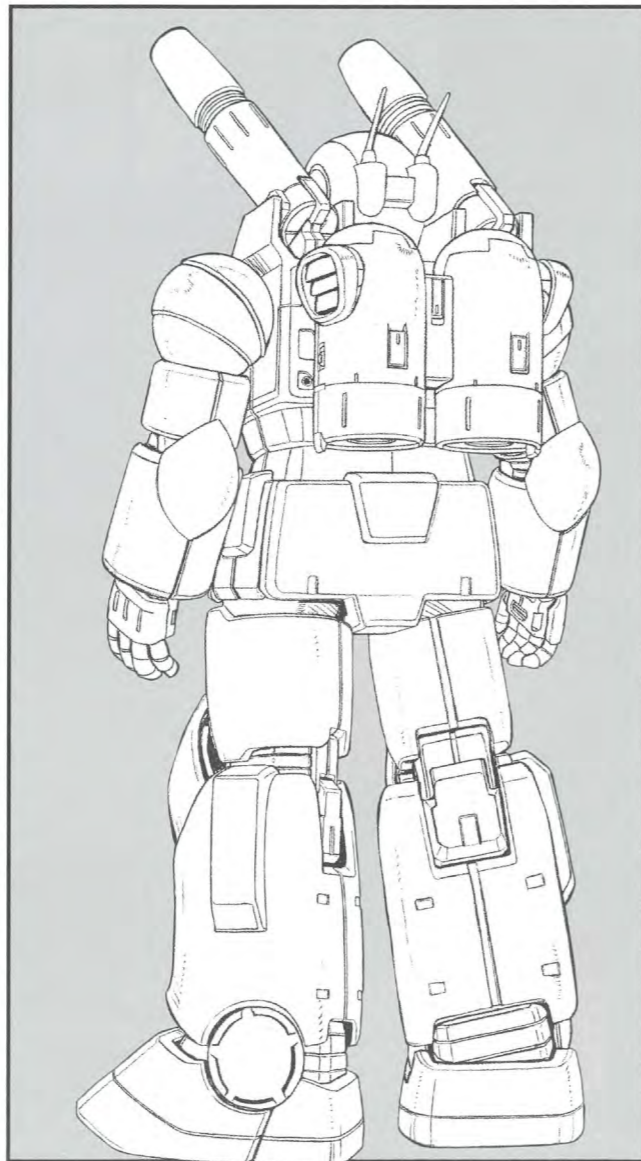
第13独立部隊（通称「ホワイトベース部隊」あるいは「ニュータイプ部隊」とも呼ばれる）においては、主にカイ・シデンとハヤト・コバヤシによって運用された。アムロ・レイやセイラ・マス、リュウ・ホセイも何度か運用しているが、特に、ジャブロー

攻略戦以降はそれぞれのポジションがほぼ確定しており、108にはカイが、109にはハヤトが専任パイロットとして搭乗していた。

RX-77ガンキャノンは、連邦軍における初めての直立歩行型のRXMSであるとされている。設計当初からRX-78との連携が想定されており、中距離支援を主目的としていた。また、RX-75と比較して総合的なジェネレーター出力が向上したため、ビーム・ライフルのドライブが可能となった。ただし、装甲厚やキャノン砲の搭載などによって高度な運動性の獲得が期待できなかったため、本格的な近接戦闘用の武装であるビーム・サーベルの運用は見送られている。ただし、頭部バルカン砲やビーム・ライフルなどは近接戦闘時にも有効であった。また、撤退行動や拠点攻略用としてハンドグレネードも装備されている。

RX-77は、初期試作型のほか、先行型仕様として6機が生産された。型式番号は初期試作型がRX-77-1、先行型仕様機がRX-77-2であるとされる。6機の先行仕様型のうち、3機がサイド7においてトライアルを行っていたが、U.C.0079年9月18日の公国軍特務部隊による攻撃で1機を残して破壊された。この機体は使用可能なパーツ群とともにホワイトベースに搬入され、一年戦争終結まで運用された。

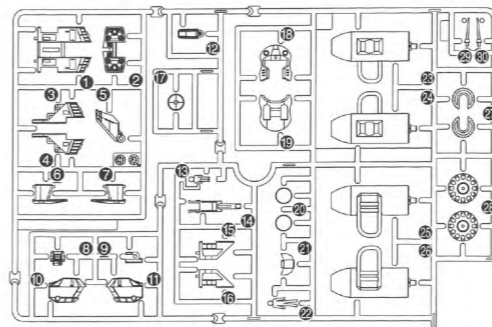
ちなみに、ジャブロー寄港時にホワイトベースで運用されていた機体は全て改修を受けており、並行してコア・ファイターも全てリナンバーが施されている。初期仕様機は、001～004であり、003はオデッサ戦において失われている。ジャブロー寄港以降、機体ナンバーはすべて更新され、追加配備された新規の機体から005～009が振り分けられたようだ。005および006は支援用の機体とされ、008および009は2機のガンキャノン108、109用のコックピットとして運用された。順当に考えれば、ガンダム用のコア・ファイターは007だとするのが妥当かと思われるが、実際の機体番号が078であったとする資料もあり、詳細は不明である。



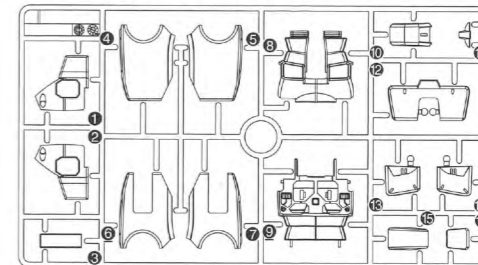
Conceptual illustration : Katoki-Hajime

パーツリスト

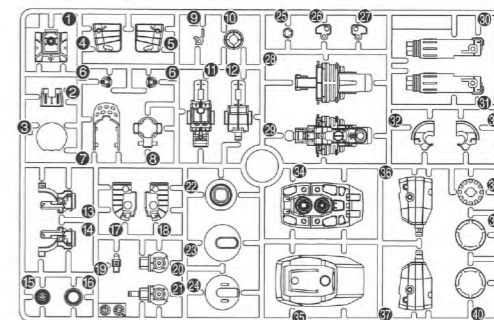
Aパーツ (スチロール樹脂 : PS)



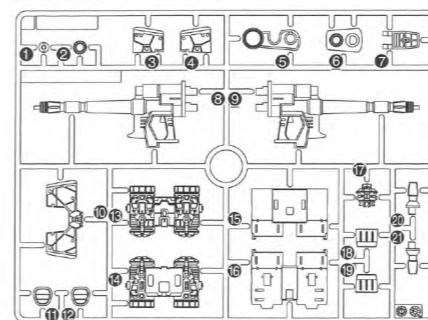
Bパーツ (スチロール樹脂 : PS)



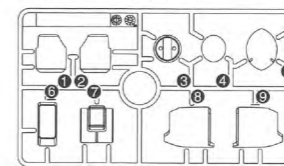
Dパーツ (×2)
(スチロール樹脂 : PS)



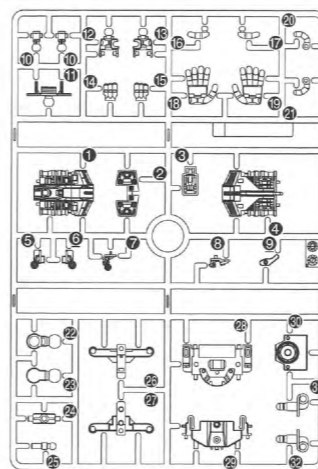
Cパーツ (スチロール樹脂 : PS)



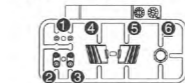
Fパーツ (×2)
(スチロール樹脂 : PS)



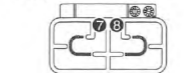
Eパーツ (ABS樹脂 : ABS)



G1パーツ
(スチロール樹脂 : PS)



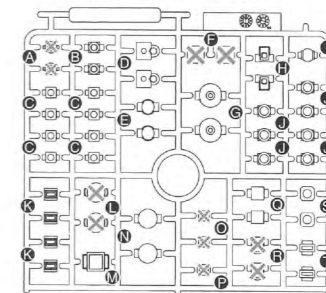
G2パーツ
(スチロール樹脂 : PS)



Hパーツ
(スチロール樹脂 : PS)

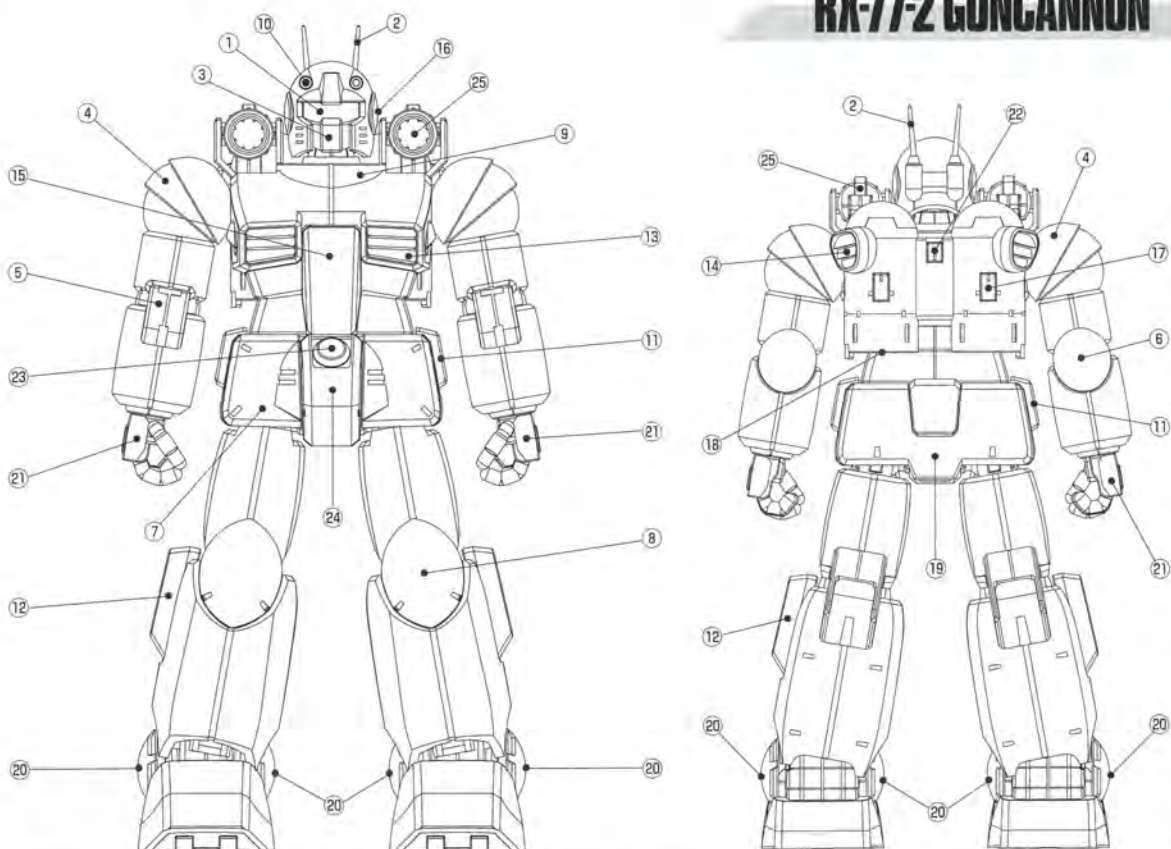


PC-125
(ポリエチレン : PE)



マーキングシール…………… 1枚
ガンダムデカール…………… 1枚

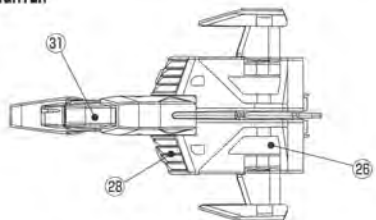
RX-77-2 GUNCANNON



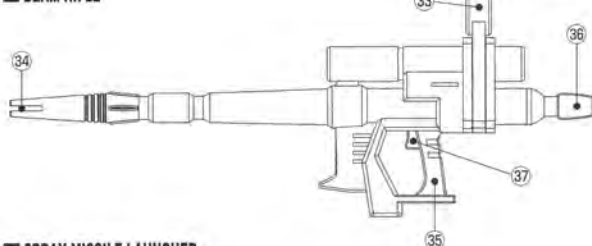
- | | | | | |
|-----------------|------------------|---------------|---------------|--------------|
| ①メインカメラ/センサーアレイ | ⑨オールブリークエンシーセンサー | ⑬マウントラッチ | ⑲240mmキャノン | ⑳サイトスコープ |
| ②マルチロッドアンテナ | ⑩60mmバルカン | ⑲メインスラスタ | ⑳ミサイルハッチ | ㉑マズル |
| ③レーザー&EMセンサーアレイ | ⑪コントロールコア | ⑲リアアーマー | ㉑30mmバルカン | ㉒グリップ |
| ④フレキシブルシールドアーマー | ⑫グレネードラック | ⑲アングルサポートユニット | ㉑エアインテーク | ㉒マスバランサー |
| ⑤エルボージョイント | ⑬ダクト/インテーク | ⑲マニピュレーター | ㉑ロケット/ジェットノズル | ㉒トリガー |
| ⑥エルボージョイントアーマー | ⑭ダクト | ⑲ハードポイント | ㉑ランディングギア | ㉒スプレーミサイルポッド |
| ⑦フロントアーマー | ⑮コクピットハッチ | ⑲サーモセンサー | ㉑キャノピー | ㉒サイロ |
| ⑧ニージョイントアーマー | ⑯メンテナンスハッチ | ⑲ベンチレートボックス | ㉑アングルギア | ㉒グレネード |

注) 本機は、6機建造された初期型のRX-77-2の内、サイド7においてトライアルを行っていた3機の内1機で、ホワイトベースの守りの要として宇宙においても地上においても活躍。多数の戦果を挙げている。ジャブローにおける改修後、第13独立部隊所属となり再び宇宙へ。一年戦争における決戦場となったア・バオア・クー戦において撃破されている。なお、108と109に仕様の差はほとんどない。

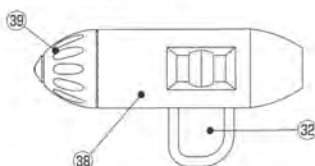
■ CORE FIGHTER



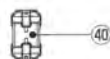
■ BEAM RIFLE



■ SPRAY MISSILE LAUNCHER



■ GRENADE



△ 注意

必ずお読みください

- この商品の対象年齢は15才以上です。〈鋭い部品がありますので、安全上15才未満には適しません。〉
- 小さな部品があります。口の中には絶対に入れないでください。窒息などの危険があります。
- ビニール袋を頭から被ったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- 小さなお子様のいるご家庭では、お子様の手の届かないところへ保管し、お子様には絶対に与えないでください。

〈組み立てる時の注意〉

- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。
- 部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- 部品の中には、やむをえず、とがった所があるものもありますが、気をつけて組み立ててください。
- 塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

接着をするところの線	シールの番号	デカールの番号	反対側に取り付けるパーツ	両側に向いパーツを取り付ける	向きに注意して取り付ける	ビスの締めすぎに注意
切り取る場所	部品を数値の個数作ります	先に組み立てます	後に組み立てます	数値に合わせて回転させます	どちらかを選んで取り付ける	反対側も同じように動かします

1 x2

2 x2

4

3 x2

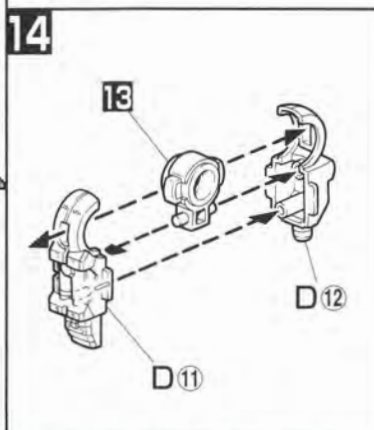
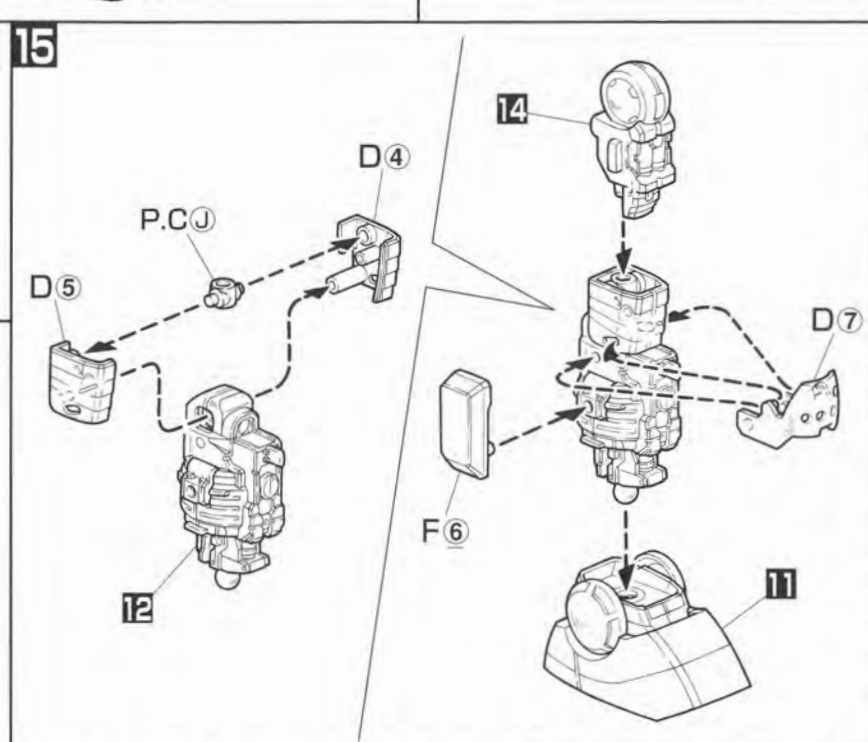
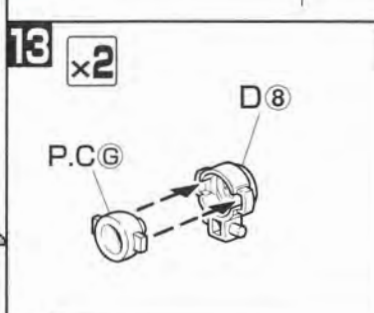
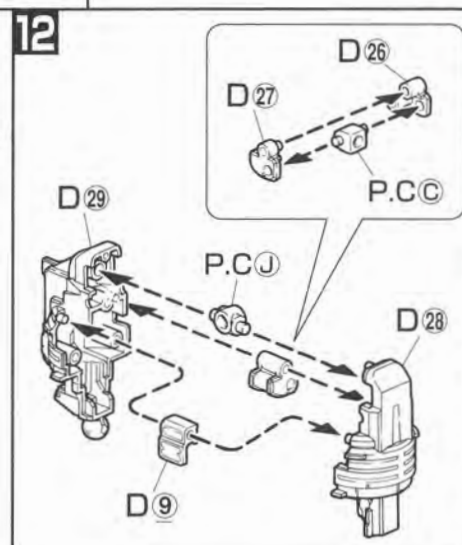
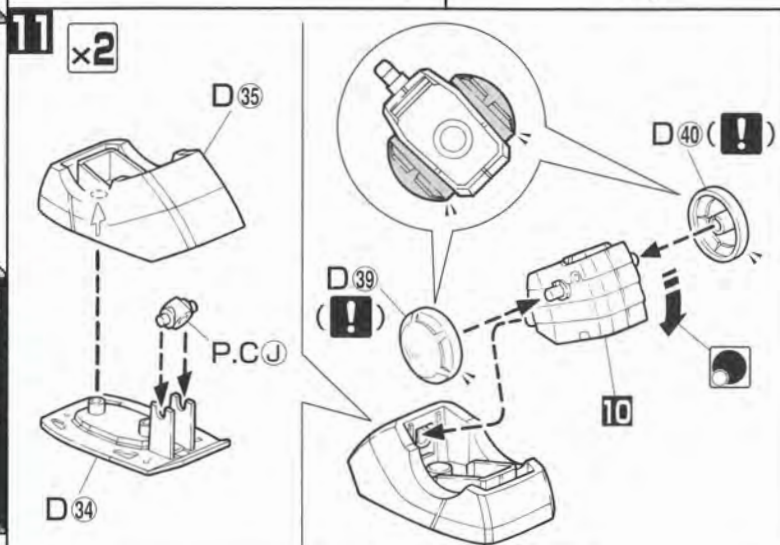
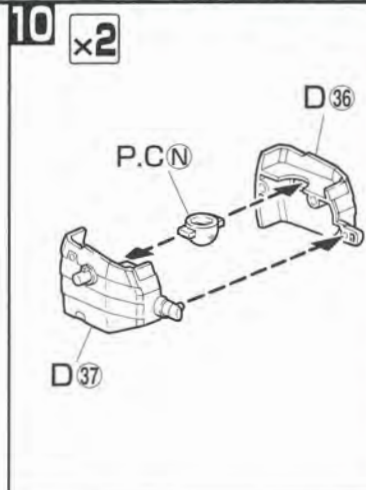
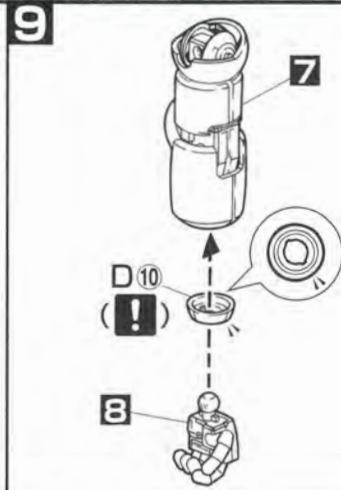
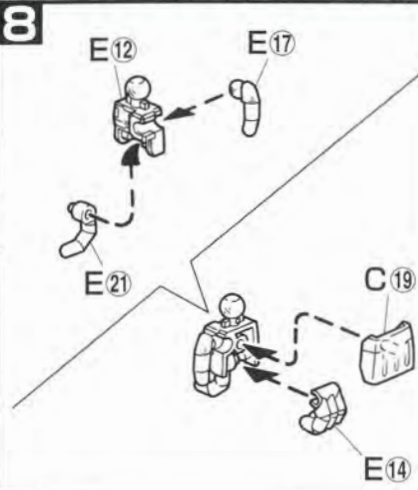
5

7

6

5

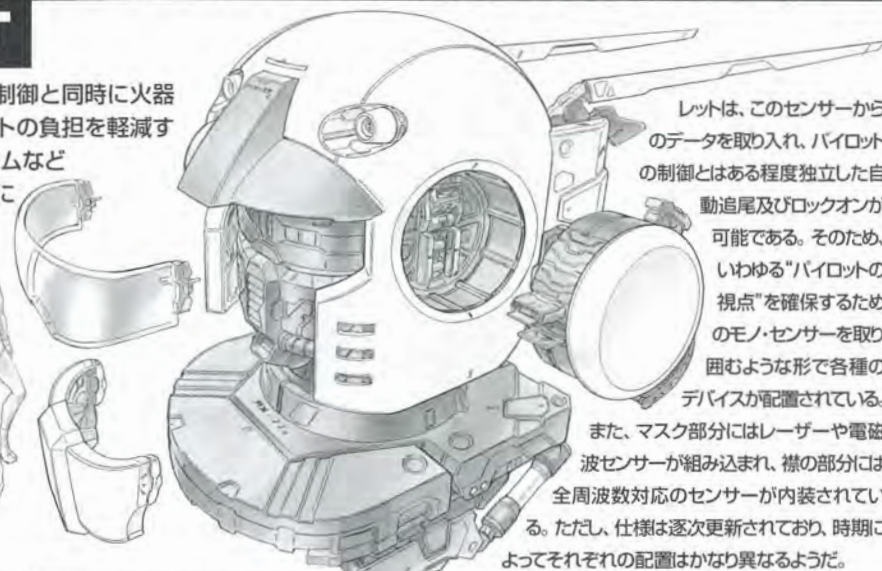
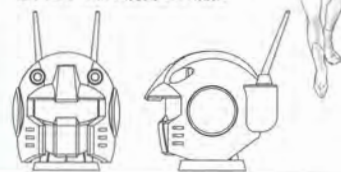
7



HEAD UNIT

ガンキャノンの頭部は、機体制御と同時に火器管制を行う必要があるパイロットの負担を軽減するためのコ・プロセッサーフレームなどが搭載されており、ゴーグル内には複数のセンサー類が内装されている

この機体の火器管制は、基本的に頭部のセンサー群とコ・プロセッサーシステムによって処理されているが、肩部の火器ター



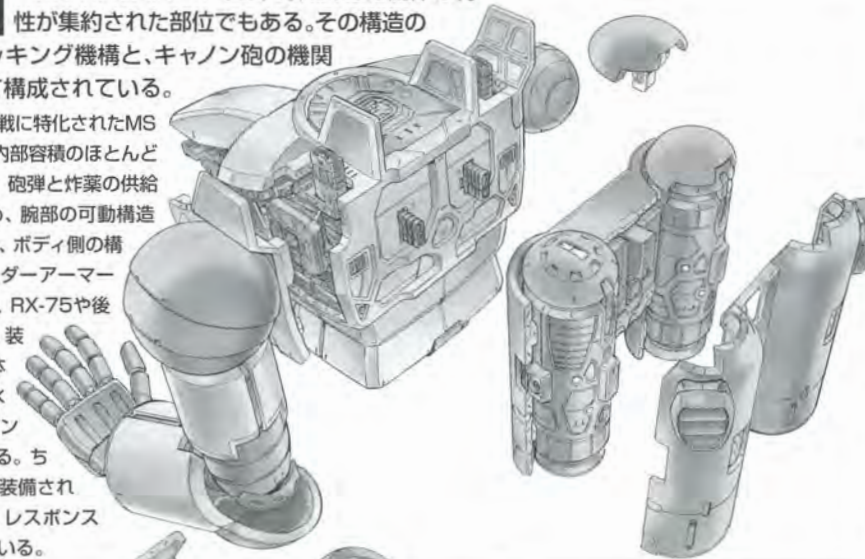
レットは、このセンサーからのデータを取り入れ、パイロットの制御とはある程度独立した自動追尾及びロックオンが可能である。そのため、いわゆる“パイロットの視点”を確保するためのモノ・センサーを取り囲むような形で各種のデバイスが配置されている。また、マスク部分にはレーザーや電磁波センサーが組み込まれ、襟の部分には全周波数対応のセンサーが内装されている。ただし、仕様は逐次更新されており、時期によってそれぞれの配置はかなり異なるようだ。

BODY UNIT

RX-77のAパーツ(上半身)は、この機体の特性が集約された部位でもある。その構造の

ほとんどは、コア・ブロックのドッキング機構と、キャノン砲の機関部およびスラスター基部によって構成されている。

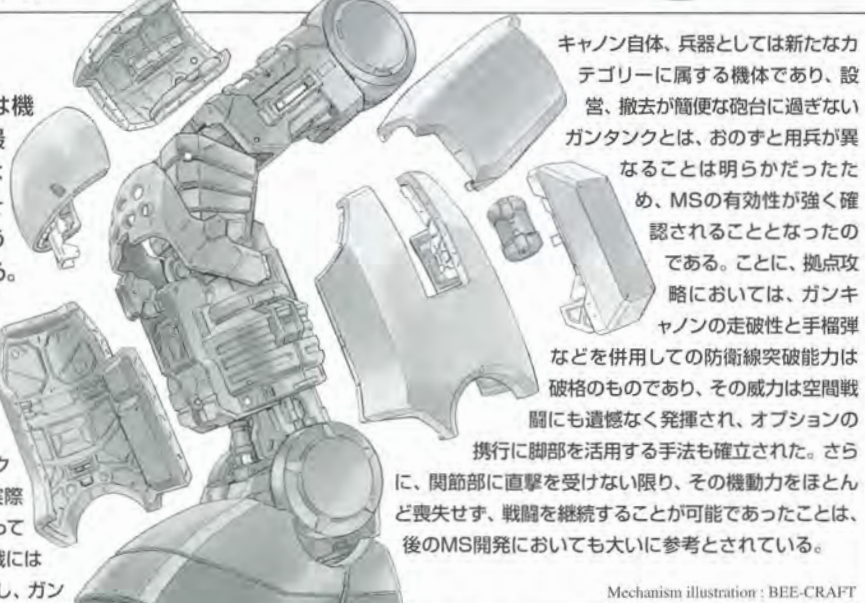
ガンキャノンのボディユニットは、砲撃戦に特化されたMSとしての構造を持っている。胸部構造は内部容積のほとんどがキャノン砲のためのものとなっており、砲弾と炸薬の供給装置によって占められている。そのため、腕部の可動構造のほとんどは肩部自体に内装されており、ボディ側の構造は基部のスイング機構程度で、ショルダーアーマー自体も特殊な形状となっている。これは、RX-75や後の機体にもいくつか見られる構造であり、装甲厚との兼ね合いなどから採用する機体も多い。砲身の周囲には強制冷却用の水冷ジャケットが装備され、ザク・マシンガンに匹敵する連射能力の獲得に成功している。ちなみに、マニピュレーターはガンダムに装備されているものと機能的にはほぼ同等だが、レスポンスよりはトルクを優先した調整が施されている。



LEG UNIT

MSの脚部は、重力下においては機体の戦闘能力を輸送、稼働させる最重要ユニットである。ガンキャノンは重装備であるため機動性が低く、そのウィークポイントを重装甲という防御能力の向上により対処している。

ガンキャノンの脚部に求められたのは、MSの兵器としての検証と、今後の戦闘に有効な兵装の確認であった。MSは、当時のMBTに代替可能な兵器なのか、あるいは、陸戦兵器として“歩行”することがメリットか、等の検証が、ガンタンクとの比較によって行われたのである。実際には、コストや調達などを含む運用によっては、通常の戦闘車両なども依然として陸戦には有用であることが明らかとなった。ただし、ガン



キャノン自体、兵器としては新たなカテゴリーに属する機体であり、設置、撤去が簡便な砲台に過ぎないガンタンクとは、おのずと用兵が異なることは明らかだったため、MSの有効性が強く確認されることとなったのである。ことに、拠点攻略においては、ガンキャノンの走破性と手榴弾などを併用しての防衛線突破能力は破格のものであり、その威力は空間戦闘にも遺憾なく発揮され、オプションの携行に脚部を活用する手法も確立された。さらに、関節部に直撃を受けない限り、その機動力をほとんど喪失せず、戦闘を継続することが可能であったことは、後のMS開発においても大いに参考とされている。

SURPRISE ATTACK

U.C. (宇宙世紀) 0079年9月18日。ゲリラ掃討作戦からの帰還途中、シャア・アズナブル少佐率いる公国軍特務部隊は連邦軍の新造艦に遭遇。その形状から「木馬」と呼称し、追跡していた。僻地であるにも関わらず、木馬が入港したサイド7の1/100スケール連邦軍のMS (モビルスーツ) 開発計画「V作戦」の拠点と推測したシャア少佐は、コロニーへ偵察隊を差し向ける。コロニーに潜入したデニム曹長とジーン軍曹は、架台に乗って搬出中のMS多数を確認した。血気にはやるジーンは、敵の新兵器を撃破すべくMSザクに乗り込む。「我々は偵察が任務なんだぞ！ 貴様、命令違反を犯すつもりか!? やめろ、ジーン!!」シャア少佐だって！ 戦場の戦いで勝って出世したんだ!! 制止するデニムを振り切り、ジーンはザク・マシンガン狙いを定める。「へっ、手柄を立てちまえばこっちのものよ！」入植が始まったばかりのコロニーに爆音が響きわたり、歴史は新たな局面を迎える……。



FORCE WAY THROUGH OPERATIONS

U.C. 0079年12月初頭。ジャブローを脱したホワイトベースはシャア大佐のガンジバルの追撃を受け、その行く手にはドレン大尉率いるキャメルパトロール隊が待ち伏せていた。「ミノフスキー粒子戦艦濃度散布終了！ 総員艦隊戦用意!!」ホワイトベースのクルーたちは、この数ヶ月間で確実に戦士として成長していた。「各機カタパルト射線確認しろ！ メカニックマンは回避急げ！ 射出1分前!!」ホワイトベースのハッチが開放される。「宇宙 (そら) か…」アムロはつぶやく。カイ、ハヤトのガンキャノンに続き、アムロのガンダム、そしてセイラ、スレッガーのコア・プースターが出撃する。「いいか、一気にケリを着ける。一撃で仕留めるぞ!!」キャメル、スワメル、ドクメルの3隻にリック・ドム多数で迎撃つドレンにも抜かりはなかった。ガンキャノンとコア・プースターは、見事な連携で一機、また一機とリック・ドムを撃墜する。そして……。



▲ 肩のキャノン砲は、スプレーミサイルランチャーに交換可能。

PAINTING

※よりリアルに仕上げたい場合は、下の基本色をご確認ください。
 ※塗装には、より安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。
 ●このキットをよりリアルに塗装したい方は、(株)GSIクレオスより発売のガンダムカラー (MG/HG「ガンキャノン」用) をお使いください。
 ●ABS樹脂部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はおすすめできません。

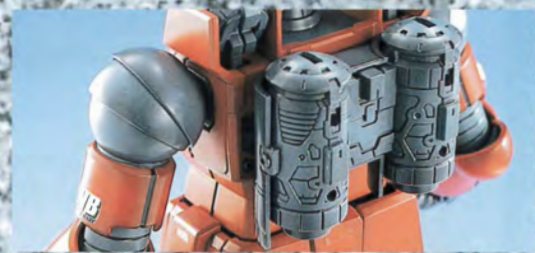
- 本体などの塗装色。
 レッド (80%) + オレンジ (20%) ※またはガンダムカラー レッド1
- 足、肩、内部メカなどの塗装色。ネービーブルー (50%) + グリーン (20%) + ホワイト (20%) + ブラック (10%)
- バックパック、キャノン砲、ライフルなどの塗装色。
 ミディアムブルー (50%) + ブラック (30%) + ホワイト (20%) + レッド少量
- 頭部などの塗装色。ホワイト (90%) + イエローグリーン (10%) ※またはガンダムカラー ホワイト2
- インテークなどの塗装色。イエロー (80%) + オレンジイエロー (10%) + ホワイト少量 ※またはガンダムカラー イエロー1
- 手榴弾の塗装色。
 黒鉄色 (60%) + ブラック (40%)
- ライフルスコープの塗装色。
 クリアイエロー (100%)
- コア・ファイターブルー部の塗装色。
 ブルー (80%) + ホワイト (10%) + レッド (10%)
- コア・ファイターホワイト部の塗装色。
 ホワイト (100%)



FRONT VIEW



REAR VIEW



▲ 背部バックパックのカバーは、脱着式。内部メカディテールを再現。

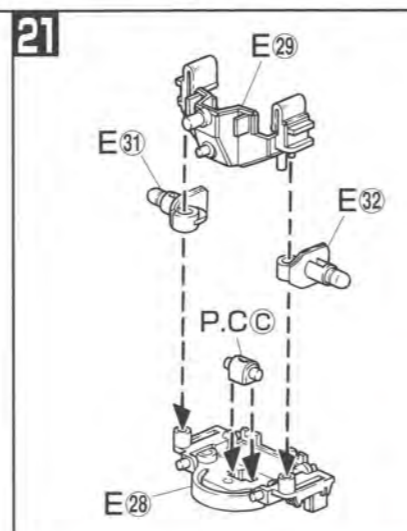
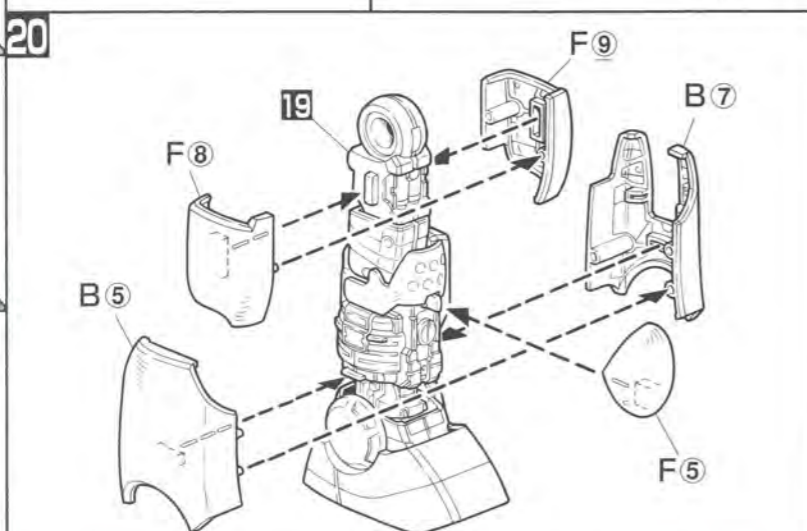
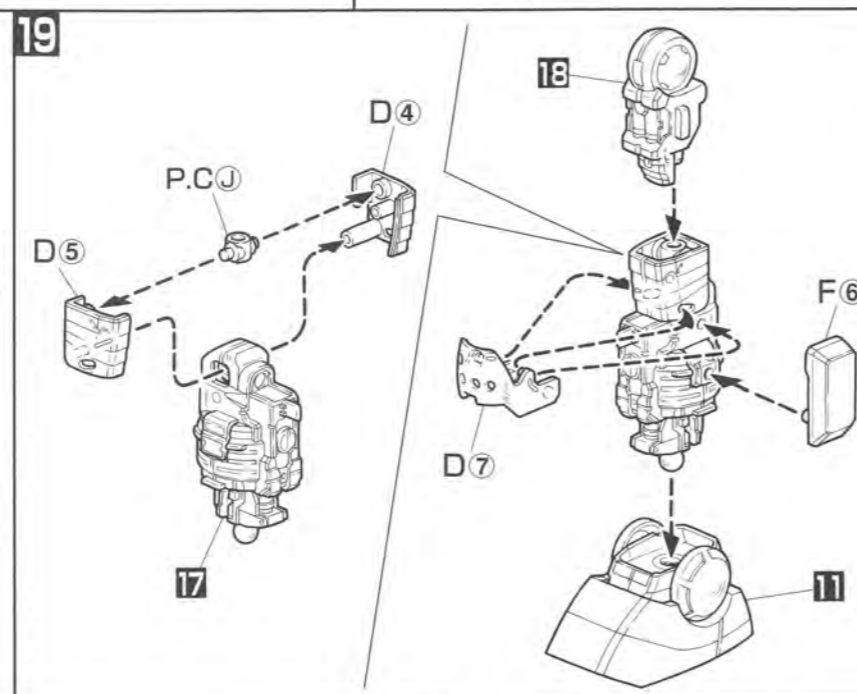
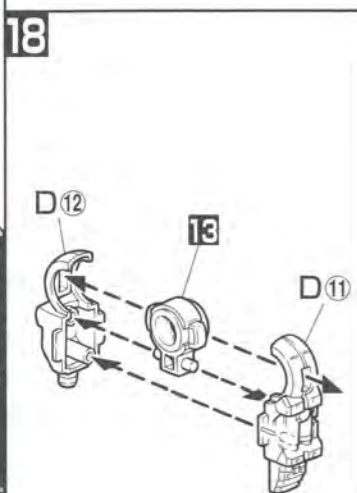
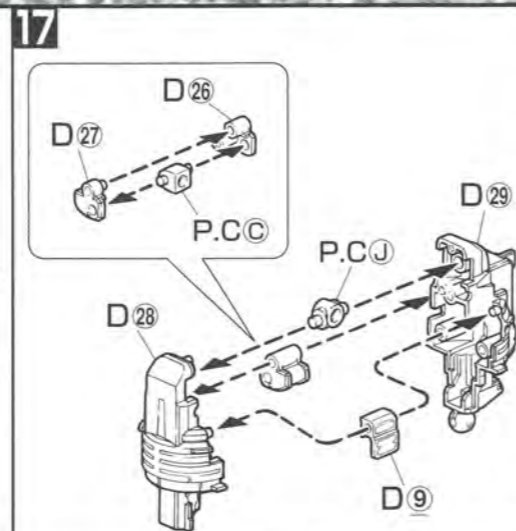
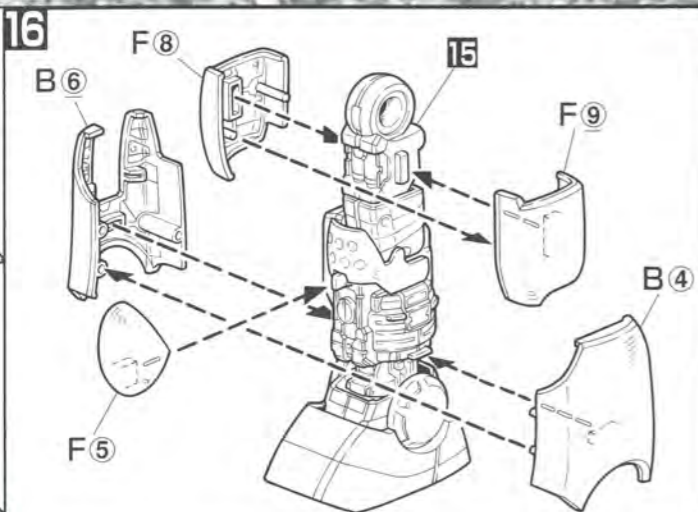


▲ 脚部の装甲は、脱着式。側面に設置されたグレネードラックは開閉とハンドグレネードを装着可能。

BATTLEGROUND IS WILDERNESS

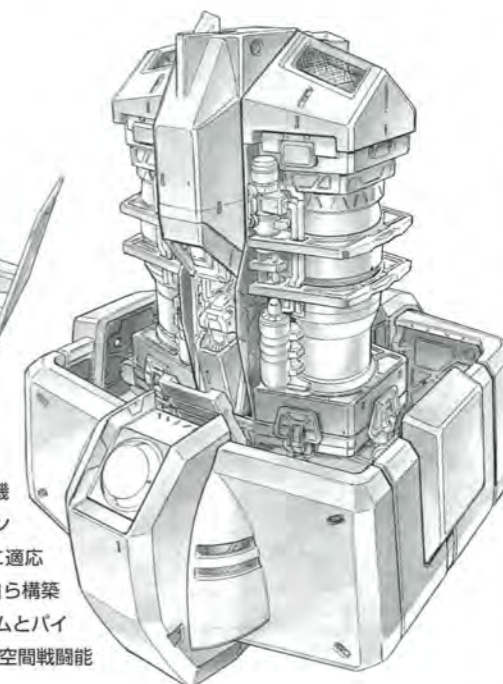
U.C. 0079年10月初旬。公国軍の勢力圏である北米大陸をさまようホワイトベースは、避難民の希望を運ぶこととなり、公国軍に一時休戦を申し入れる。これを戦力拡充の好機と見た地球方面軍司令ガムラ・ザビ大佐は、時間を稼ぎつつ、必勝の布陣で部隊を展開すべく、その要求を聞き入れる。一方、避難民を乗せてホワイトベースを出発したガンペリーは、不調を察し不時着。避難民を逃がせると、隠しておいたガンダムを出撃させる。休戦時間が切れ、戦闘が再開された。セイラの激励を受け、ガンキャノンを駆るカイ・シテンは戦闘に赴く。「やってみようよ！ セイラさん！ 着地もそこそこ敵の猛火に燃されたカイだったが、その爆炎に耐えきった機体に驚嘆する。「つ、強ええ……」しかし、なおも敵艦は攻撃の手を緩めない。思わず震え上がるカイ。「お、おれだって……おれだって……!!」シャにむにトリガーを引き絞り、砲弾を撃ち尽くしたその時、敵部隊の背後からアムロのガンダムが襲いかかる。崖の上からガンダムを狙うザクに気付いたカイは、後ろから体当たりでそれを蹴散らす。「へっ！ 俺にだってこれくらいはな！」かくして、戦闘はホワイトベースの圧倒的な勝利に終わった。





CORE FIGHTER

コア・ファイターは、コクピットと教育型コンピューターなどが内装された小型戦闘機で、非常時には脱出ポッドとしても機能する。RX-77の核となるモジュールである。



連邦軍によるMS開発でもっとも重要視されたのは、実戦によるデータ収集と機体稼働および運用ソフトの適正化だった。コア・ファイターに搭載された教育型コンピューターは、パイロットの負担を極力軽減する事を目的とし、新たな敵や環境に適応する能力を持つ。そして、戦闘データは逐次更新され、もっとも適切な対処法を自ら構築していくことができる。当然このシステムはコストが高く、戦闘を体験したシステムとパイロットの回収は最優先事項だった。また、小型戦闘機としても標準的な対空/対地・空間戦闘能力を持つ、非常に高密度なモジュールである。

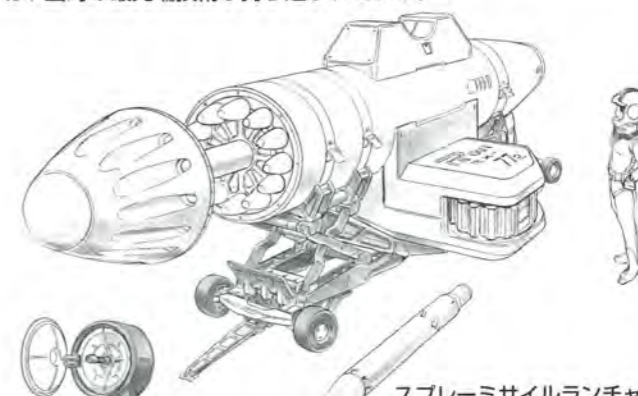
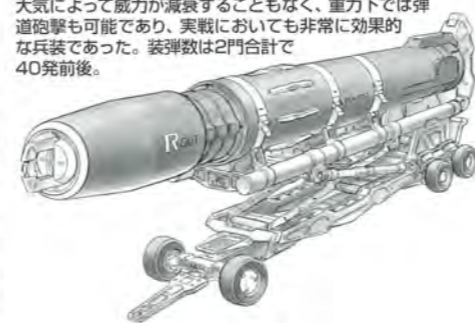
ホワイト・ベース部隊においては、タイプの異なる複数のMSが並行して運用されたため、同部隊のコア・ファイター各機が搭載するコンピューターは、破格の効率でMSの運用および戦闘に関するノウハウを“経験”または“学習”し、“蓄積”することが可能となったのである。

WEAPONS

ガンキャノンの兵装は、ガンダムの支援を想定しており、連邦軍にとって未知の兵器であるMSの運用法を模索する目的もあった。そのため、信頼性の高い実体弾装備が多く、加えて各種の武装には、当時の最先端技術が持ち込まれている。

240mmキャノン砲

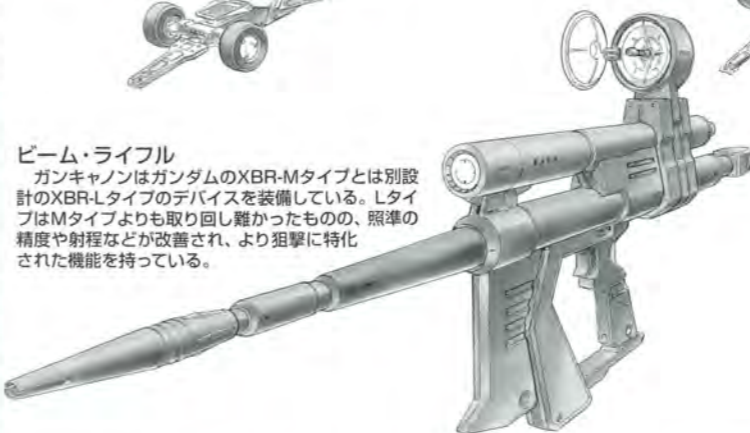
炸薬によって実体弾を射出する低反動砲。火器としては信頼性の高い兵装。射程が長い上に、ビーム兵器のように大気によって威力が減衰することもなく、重力下では弾道砲撃も可能であり、実戦においても非常に効果的な兵装であった。装弾数は2門合計で40発前後。



スプレーミサイルランチャー
オプション装備であるスプレーミサイルランチャーは、砲撃というよりは弾幕の展開に有効であると考えられていたが、ミノフスキー粒子散布下では実用的な命中精度を確保することができなかったため、ホワイトベース部隊ではほとんど使用されていない。12連装ロケット弾ポッドとも呼ばれる。

ビーム・ライフル

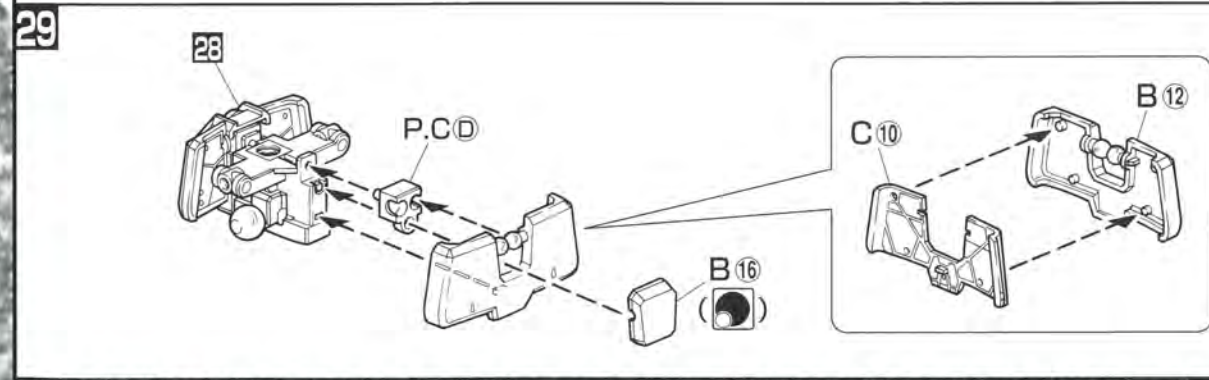
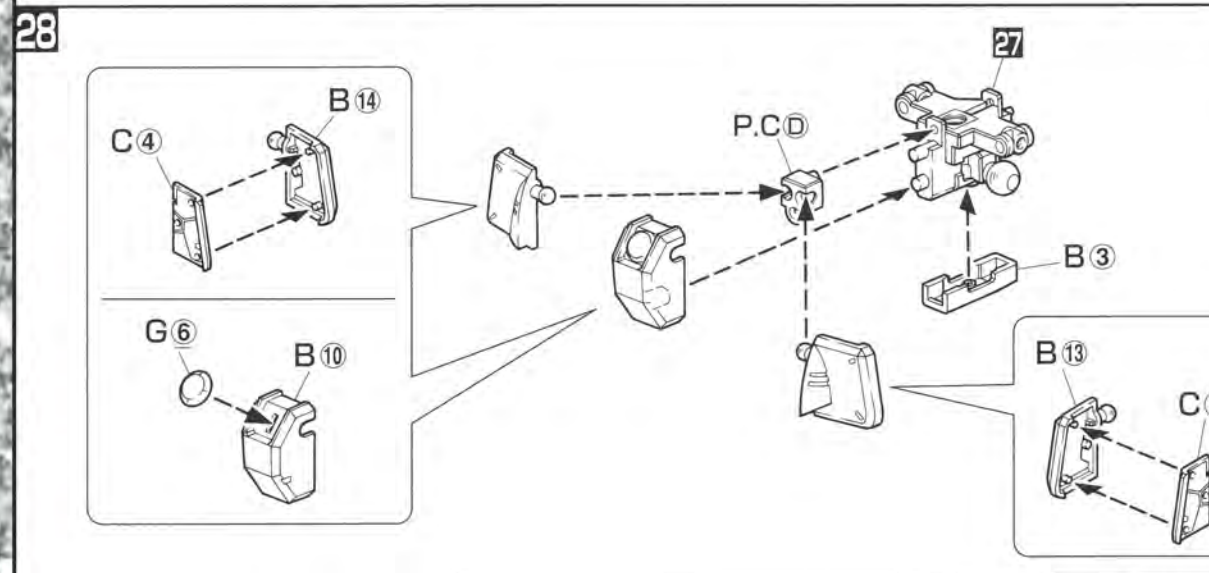
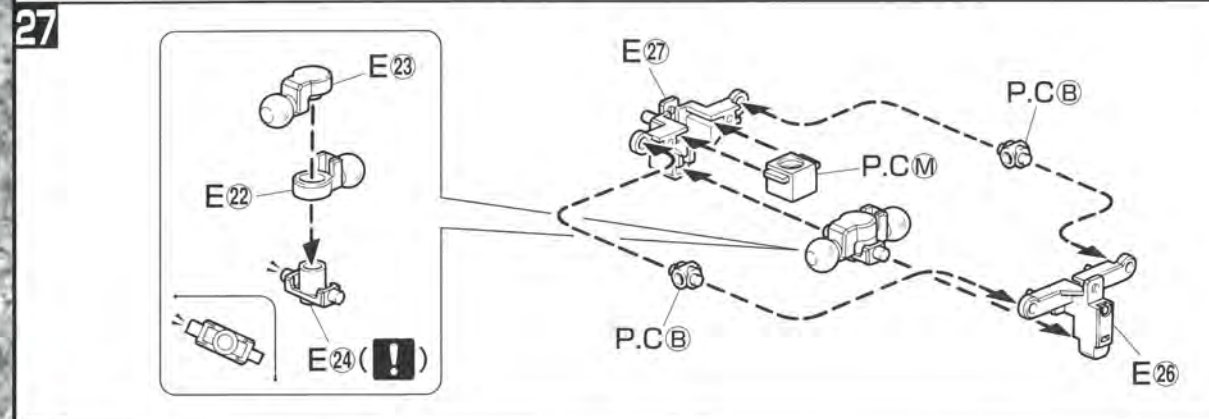
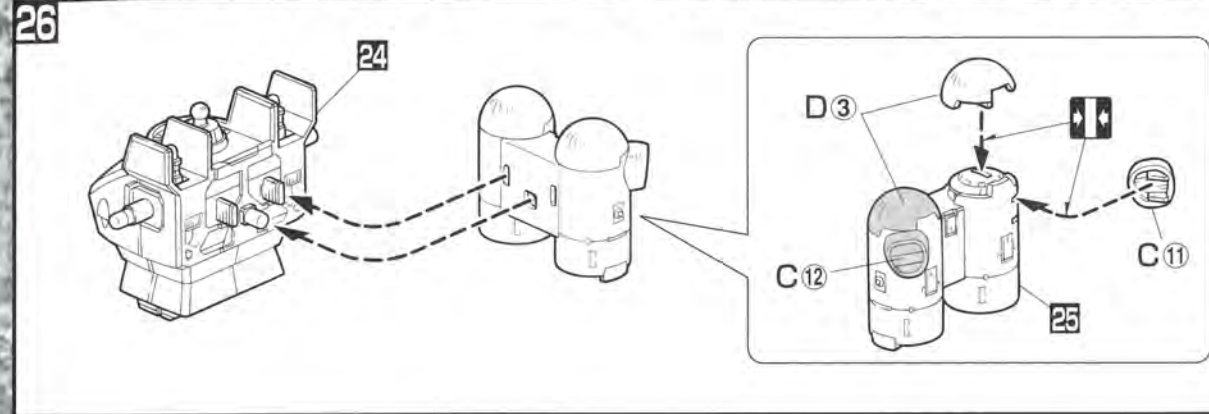
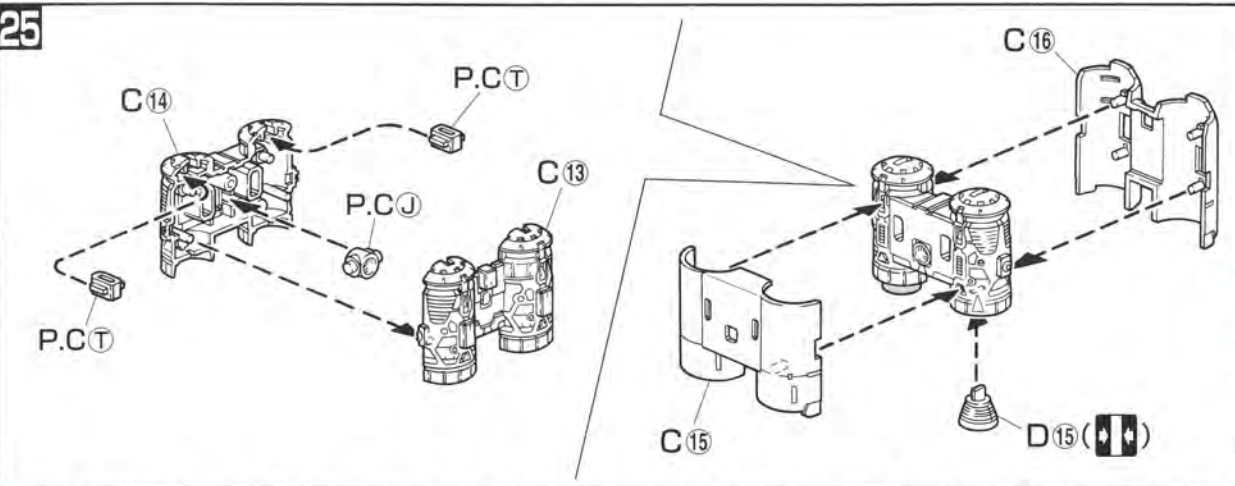
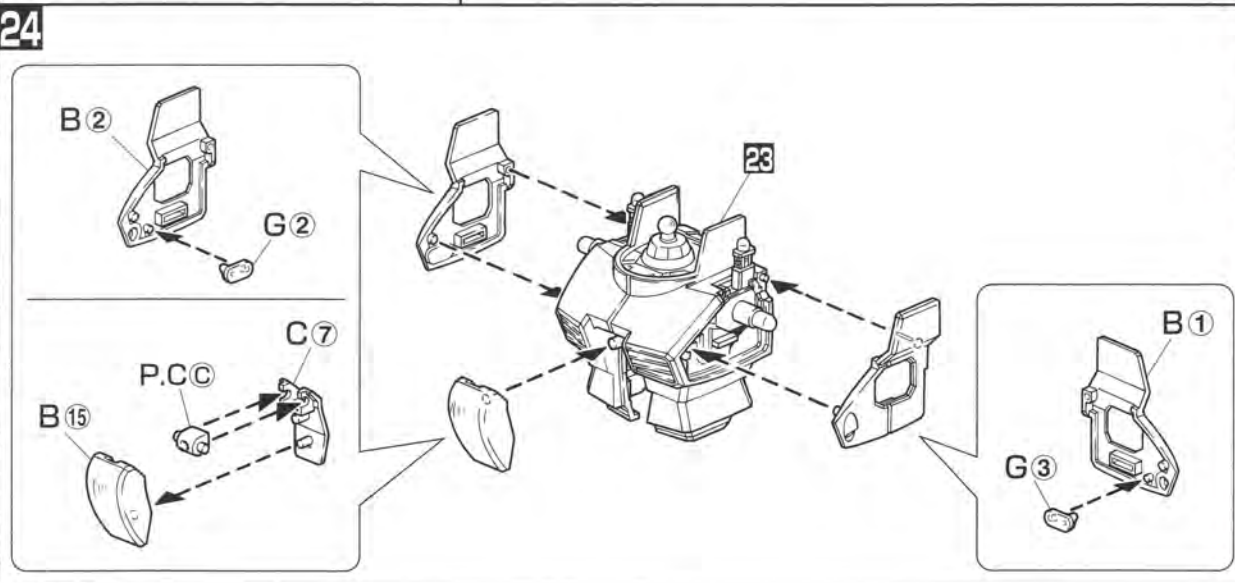
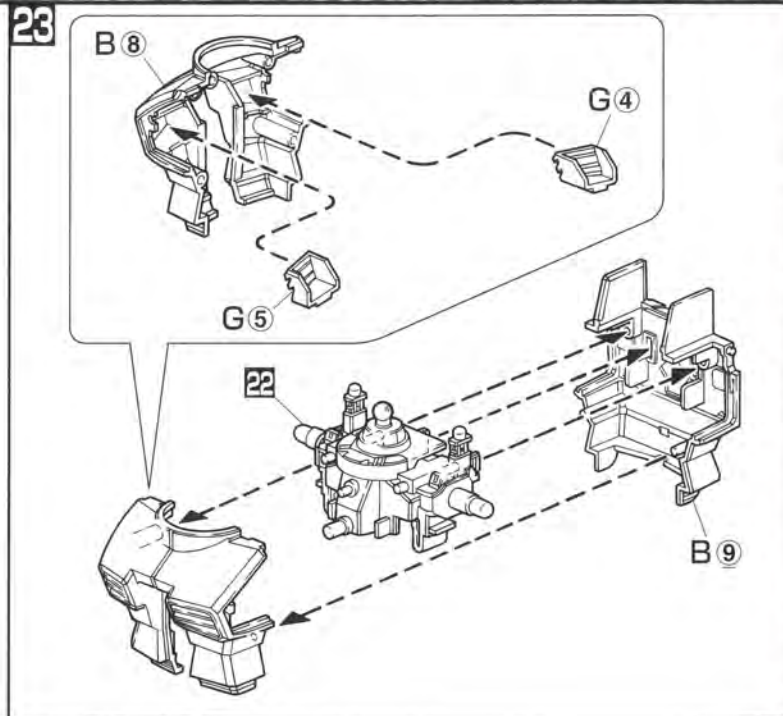
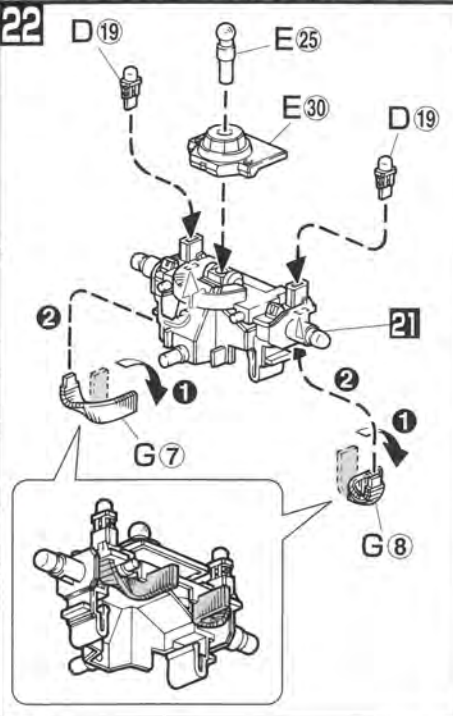
ガンキャノンはガンダムのXBR-Mタイプとは別設計のXBR-Lタイプのデバイスを装備している。LタイプはMタイプよりも取り回し難かったものの、照準の精度や射程などが改善され、より狙撃に特化された機能を持っている。

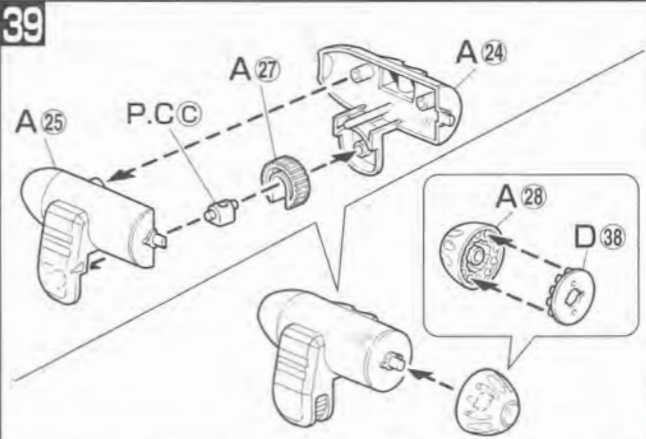
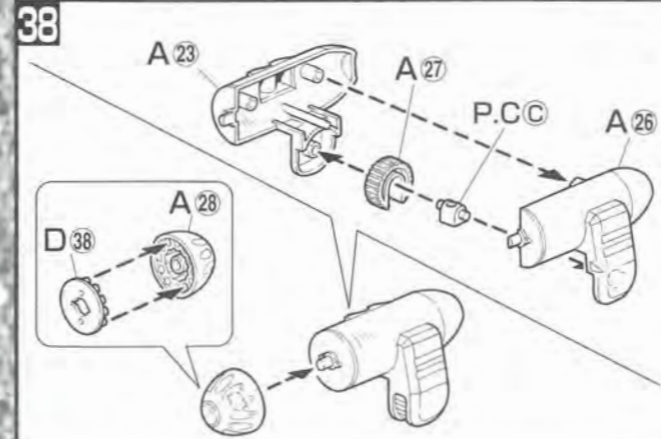
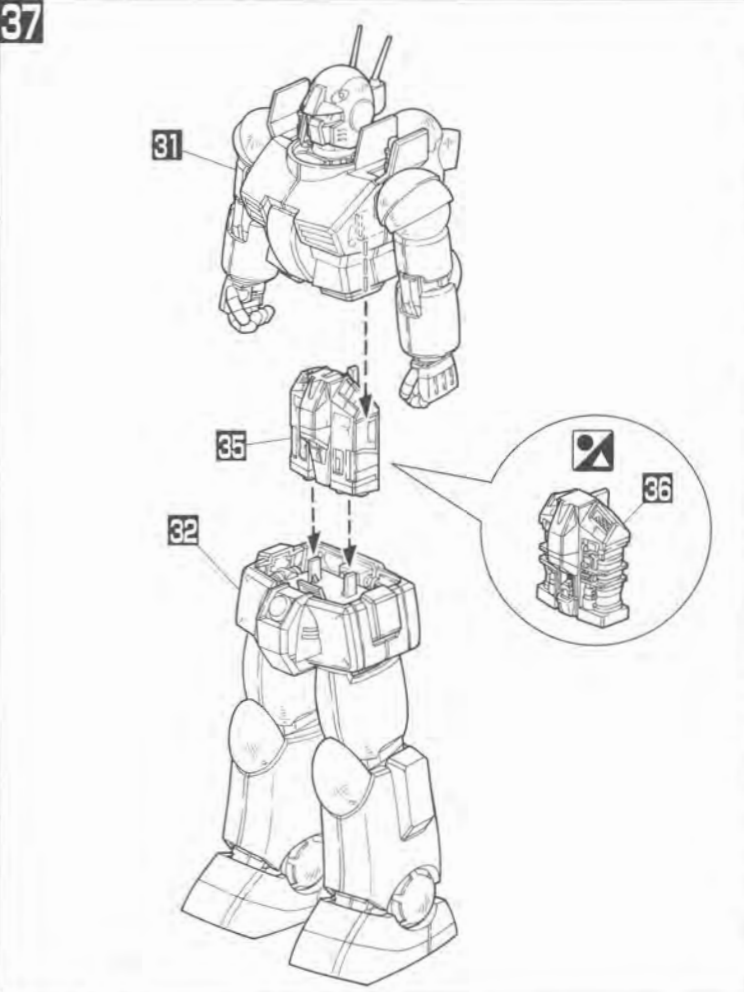
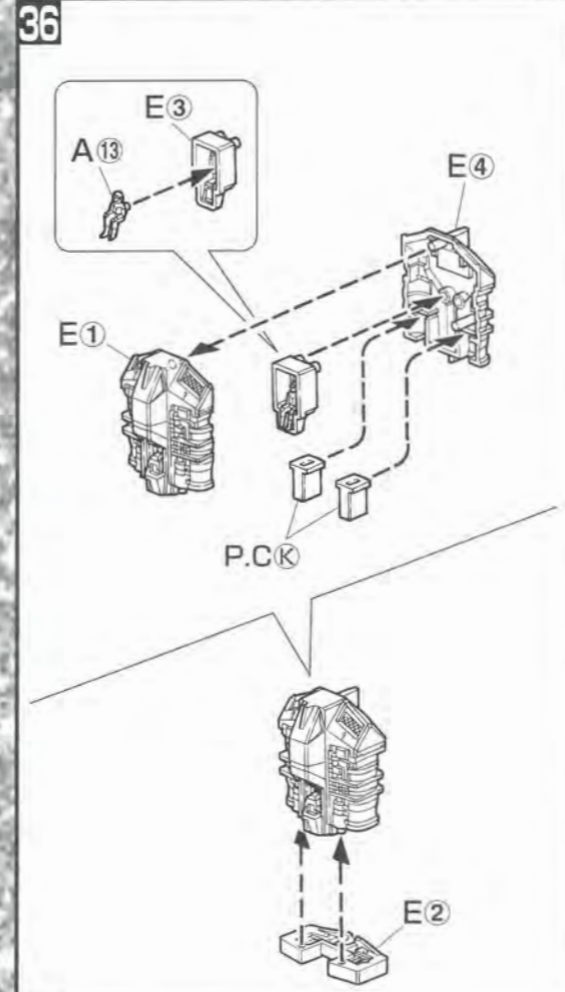
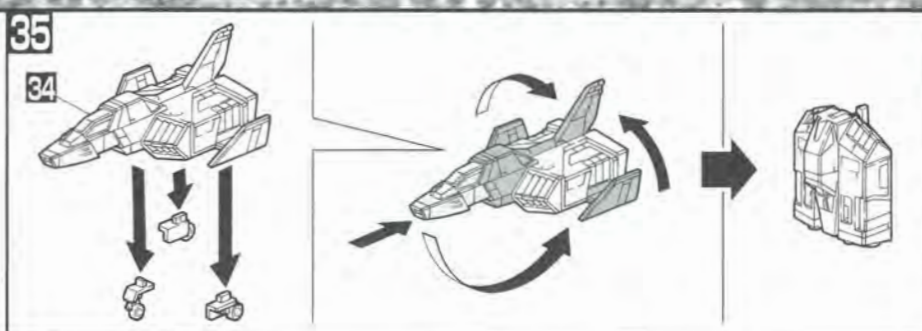
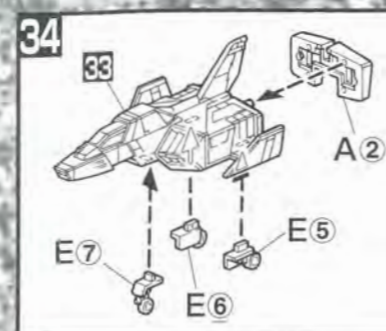
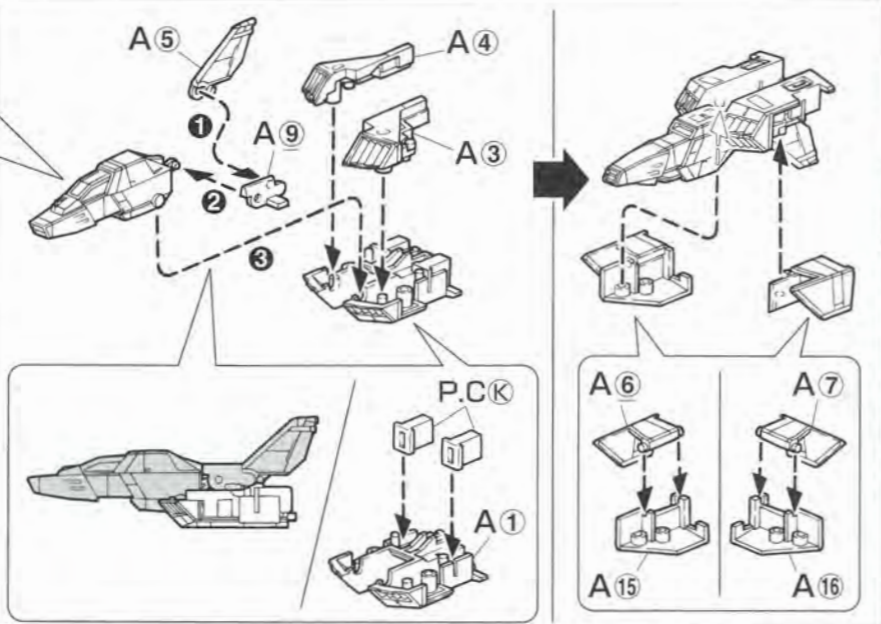
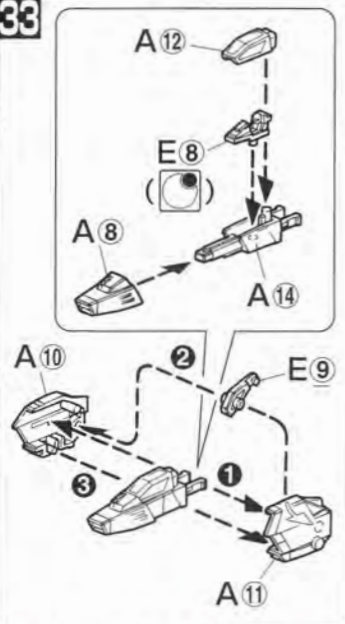
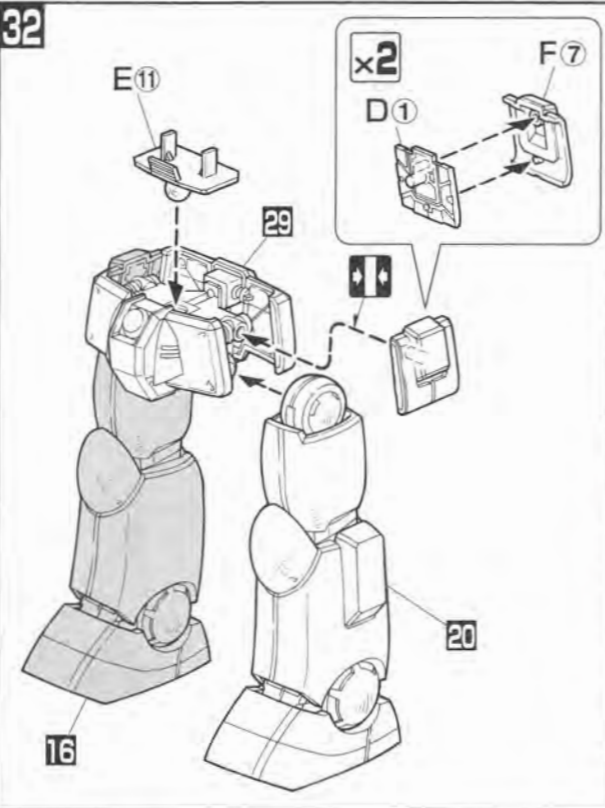
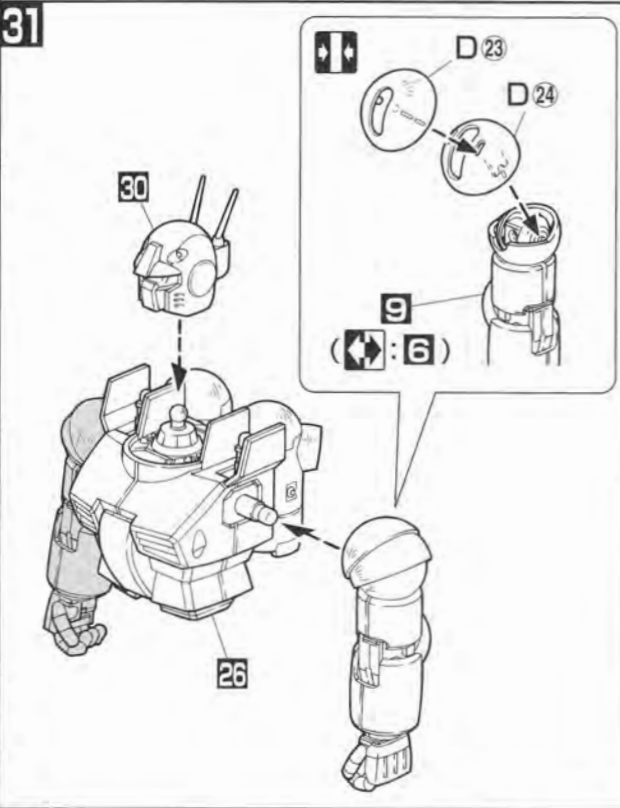
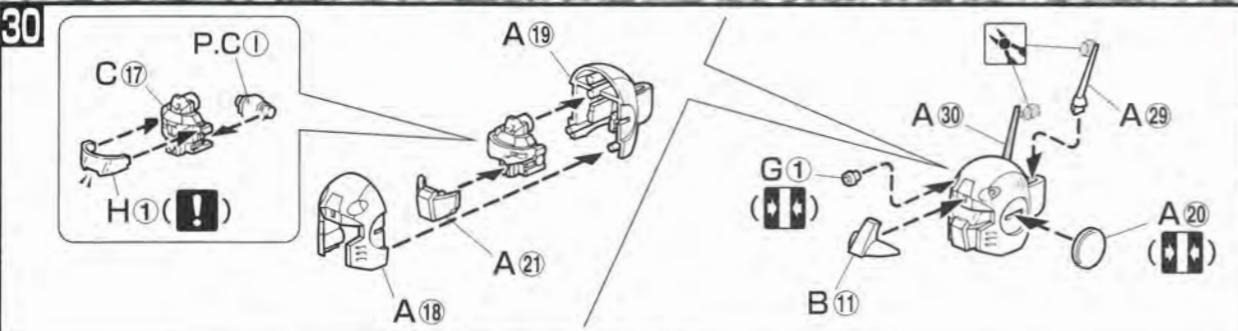


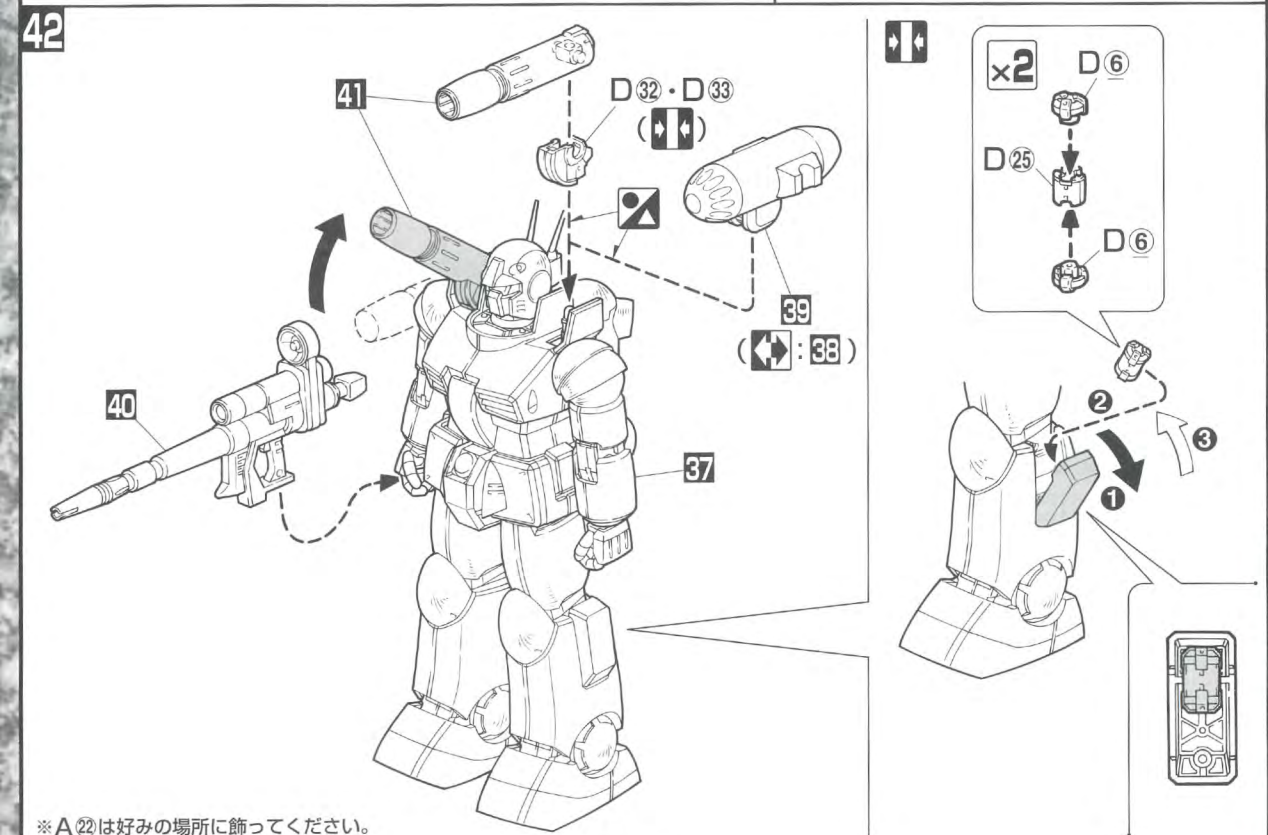
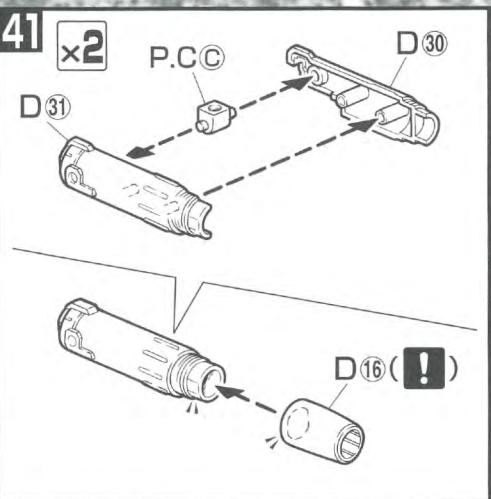
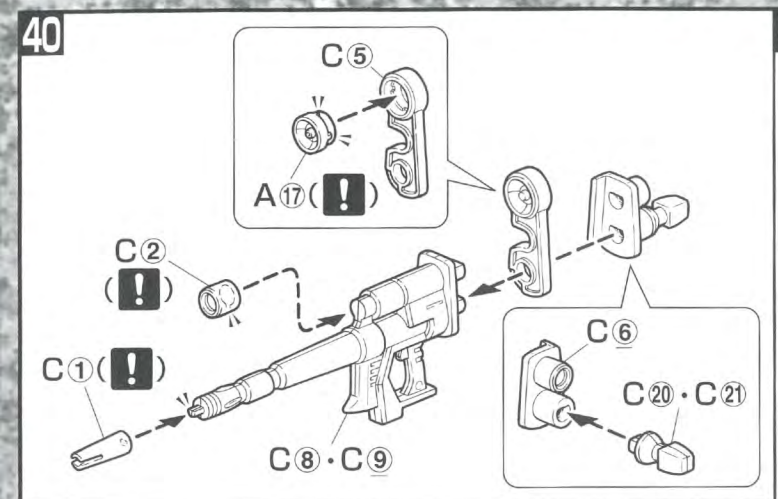
ハンドグレネード

いわゆる手榴弾。ランチャーは使わず、マニピュレーターによって投擲(とうてき)する。拠点攻略時の施設破壊などに有効。

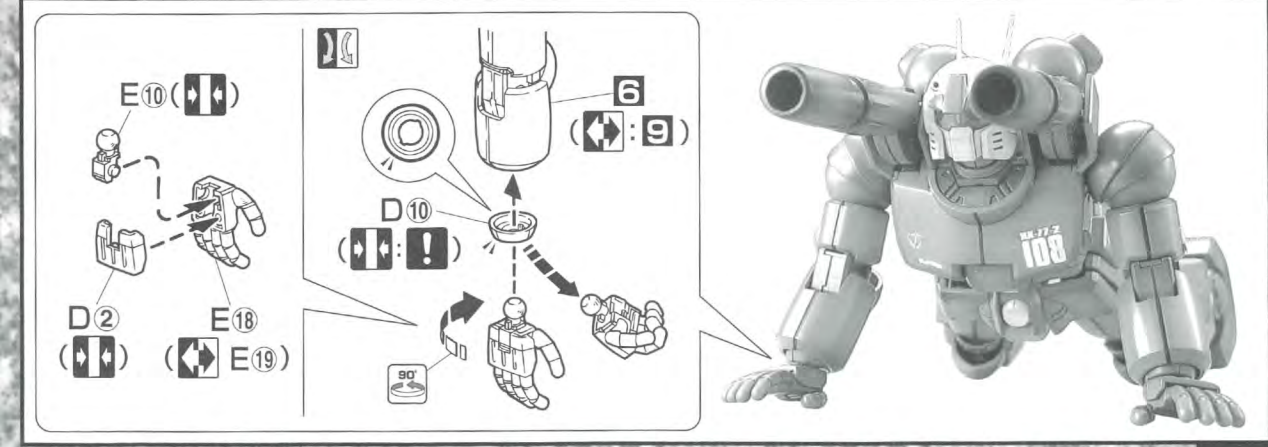








※A 22は好みの場所に飾ってください。



Parts name of RX-77-2 GUNCANNON	Parts name of RX-77-2 GUNCANNON	Parts List	Parts List	Head Unit	Body & Leg Unit	CORE FIGHTER	CORE FIGHTER	Weapons	Weapons	Final Assemble	Final Assemble
------------------------------------	------------------------------------	------------	------------	-----------	-----------------	--------------	--------------	---------	---------	----------------	----------------

Seal (シール)

下の図を見て、ガンダムデカールやシールのはり位置を確認してください。

ガンダムデカールのはりかた。

- 転写するマークを大きめに切り取ります。
- 転写する場所に軽く押さえ、ボールペン等の先の丸い物で上から軽くこすりつけます。
- シート部分を静かにはがし、転写していない部分があれば、もう一度転写していない部分をこすり取ります。

ガンダムデカール①または② 108

マーキングシール⑦

ガンダムデカール③

マーキングシール④ (反対側⑤)

マーキングシール⑤ (反対側⑥)

マーキングシール④

マーキングシール⑥

ガンダムデカール①または② 108

ガンダムデカール④または⑤ 109

108

ガンダムデカール⑧ 108

⑨ 109

⑩ 109

から選択式

マーキングシール③

マーキングシール④

マーキングシール⑤

マーキングシール⑥

マーキングシール⑦

マーキングシール⑧ (反対側⑨)

マーキングシール⑩ (反対側⑪)

マーキングシール⑫ (反対側⑬)

マーキングシール⑭ (反対側⑮)

マーキングシール⑯ (反対側⑰)

マーキングシール⑱ (反対側⑲)

マーキングシール⑳

マーキングシール㉑

マーキングシール㉒

マーキングシール㉓

マーキングシール㉔

マーキングシール㉕

マーキングシール㉖

マーキングシール㉗

マーキングシール㉘

マーキングシール㉙

マーキングシール㉚

マーキングシール㉛

マーキングシール㉜

マーキングシール㉝

マーキングシール㉞

マーキングシール㉟

マーキングシール㊱

マーキングシール㊲

マーキングシール㊳

マーキングシール㊴

マーキングシール㊵

マーキングシール㊶

マーキングシール㊷

マーキングシール㊸

マーキングシール㊹

マーキングシール㊺

マーキングシール㊻

マーキングシール㊼

マーキングシール㊽

マーキングシール㊾

マーキングシール㊿

※余ったマーキングシールやガンダムデカールは好きな所にはってください。